



～ 夢ひとすじに ～
宮原中だより
 学び 磨き 鍛え 羽ばたけ

令和 7 年度 第 9 号
 令和 8 年 1 月 8 日 (木) 発行
 さいたま市立宮原中学校
 ホームページアドレス
<http://miyahara-j.saitama-city.ed.jp>
 メールアドレス
miyahara-j@saitama-city.ed.jp



『子は親の鏡』



校長 田中和浩

「めでたさも 中くらいなり おらが春」 小林一茶
 「元日や 上々吉の 浅黄空」 小林一茶

アメリカの教育学者ドロシー・ロー・ノルト博士が 1954 年に発表した『子は親の鏡』という詩を紹介し、これは、平成 17 年 2 月に、当時皇太子であった天皇陛下が記者会見の際、3 歳になる愛子さまの養育のお話の中で朗読されたことで、日本で有名になりました。

『子は親の鏡』

けなされて育つと 子どもは 人をけなすようになる
 とげとげした家庭で育つと 子どもは 乱暴になる
 不安な気持ちで育てると 子どもも 不安になる
 「かわいそうな子だ」と言って育てると 子どもは みじめな気持ちになる
 子どもを馬鹿にすると 引込みみじあんな子になる
 親が他人をうらやんでばかりいると 子どももうらやむようになる
 叱りつけてばかりいると 子どもは「自分は悪い子なんだ」と思ってしまう
 励ましてあげれば 子どもは 自信をもつようになる
 広い心で接すれば キレル子にはならない
 誉めてあげれば 子どもは 明るい子に育つ
 愛してあげれば 子どもは 人を愛することを学ぶ
 認めてあげれば 子どもは 自分が好きになる
 見つめてあげれば 子どもは 頑張り屋になる
 分かち合うことを教えれば 子どもは 思いやりを学ぶ
 親が正直であれば 子どもは 正直であることの大切さを知る
 子どもに公平であれば 子どもは 正義感のある子に育つ
 やさしく、思いやりをもって育てれば 子どもは やさしい子に育つ
 守ってあげれば 子どもは 強い子に育つ
 和気あいあいとした家庭で育てば 子どもは この世の中はいいところだと思えるようになる

(出典：ドロシー・ロー・ノルト著「子どもがそだつ魔法の言葉」より)

詩を朗読されたあと、天皇陛下は「私自身幼少の頃から、両親にいろいろな場所に連れて行っていただき、そのなさりようを見ていたことが、今日でも、とてもよかったと思っております。その意味でも、私たちがやっている姿を(愛子さまに)見せることも、大切と考えます。」とお話されています。

私たちも、親や自分の周りの大人の姿を手本にして成長してきました。

私は、福井の田舎を訪れた際、東京に帰る日に車で駅に向かう私たちを、家の外に出ていつまでも見送ってくれる祖父母の姿を、よく思い出します。そのような姿にあらわれている気持ちをもった人でありたいと思います。

親が子によりよく育ててほしいと願う気持ちは、みな同じです。また、われわれ教職員の思いも、そのような保護者のみなさまの思いと同じであると信じます。

新春に当たり、お子様の教育に対して、一層励んでまいりますことを改めて申し上げます。本年も、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。(参考：宮内庁 HP より)